

ふれあい活力ゆとり

すみだ



## すみだの風景

### 隅田川に架かる橋②

墨田区のシンボルである隅田川は区の歴史や文化に大きな影響を与え、そこに架かる橋も人々の生活や産業の発展に寄与してきました。



■駒形橋（長さ146.3メートル、幅25メートル）  
駒形橋は昭和2（1927）年に架橋され、橋の名は台東区側にある馬頭観音を祀った駒形堂に因んでつけられました。ここも橋の架かるまでは、「駒形の渡し」という渡船場でした。この橋は中央部のアーチが橋桁の上にあり、付け根の部分のアーチは橋桁の下にあるという、隅田川の橋のなかでも独特なスタイルとなっています。芥川龍之介は「本所両国」の中に、こう書いています。『あの橋は今度出来る駒形橋ですね？』  
○君は生憎僕の間に答へることは出来なかつた。駒形は僕の小学時代には大抵「コマカタ」と呼んでゐたものである。が、それもとうの昔に「コマカタ」と発音するやうになつてしまつた。「君は今駒形あたりほとぎす」を作つた遊女も或ひは「コマカタ」と澄んだ音を「ほとぎす」の声に響かせたかつたかも知れない。』

■吾妻橋（長さ150.3メートル、幅23メートル）  
吾妻橋は、「竹町の渡し」に代わり、安永3（1774）年、長さ約76間（138メートル）、幅約3間（55メートル）の木橋として地元の人の手で架けられ、「大川橋」と呼ばれました。後に、「吾妻橋」となつたのは、吾妻神社の参道にかかるからだと言われています。明治18（1885）年の大洪水で流失、20年に隅田川で初の鉄橋として建造され、今のスマーナ橋は関東大震災後の昭和6（1931）年に架けられました。

また、墨田区と台東区とをつなぐ昔からの動脈だけに、文学作品によく登場します。芝木好子の「葛飾の女」、永井荷風の「吾妻橋」、夏目漱石の「吾輩は猫である」、堀辰雄の「水のほとり」、森鷗外の「百物語」、高見順の「東橋新誌」と実にたくさんあります。

また、歌舞伎では「夢結蝶鳥追」の一場面になるなど、両国橋と並んで、隅田川の歴史と文化を刻む橋といえます。

■言問橋（長さ146.3メートル、幅22メートル）  
正岡子規は墨堤を愛し多くの歌や句を残しており、「かりの名もまことになりぬ都鳥いざ言問わんそのかみのこと」もその一首ですが、「名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はあ



りやなしやと」という在原業平の古歌を思い起こします。橋の名はこの古歌に由来しているとの説が有力だと言われています。川端康成は著書「浅草紅団」の中で、「昭和三年二月復興局建造の言問橋は、明るく平かに広々と白い、近代風な甲板のやうだ。また都会の芥で淀んだ大川の上に、新しく健かな道を描いてゐるかのやうだ。」と書いています。

関東大震災の復興事業として、この橋が架けられるまでは、少し上流の三囲神社の鳥居と浅草待乳山とを結んだ「待乳の渡し（竹屋の渡し）」がありました。また、言問橋は、昭和20（1945）年3月10日の東京大空襲で猛火に見舞われ、多くの人が犠牲になっていました。

参考「橋はかたる」（墨田区教育委員会）

昭和58年3月